

## キリシタン灯籠



現在、讃光館（本館）横に  
ひっそりとたたずんでいる  
「キリシタン灯籠」。

高さ約140cm。小さな灯  
籠がある場所は人に教えても  
わからないと分からないかもし  
れない。

60周年記念事業新校舎建設  
の際に、今の場所に移設され  
た。以前は、香真館と旧同志  
館との間にある中庭を見渡す  
高台の三角地で巨大な楠の下  
にあった。

この「キリシタン灯籠」に  
ついて元教員の鏑木路易先生  
が、同志社香里PTA発行の  
香里の丘第89号（昭和62年3  
月）に寄稿していただいてい  
る。その一部を紹介したい。

この「キリシタン灯籠」は、  
昭和32年夏に当時高校3年生



であつた生徒が不慮の事故で亡くなつた。ご両親が生前の息子さんを偲び、学校に寄付をしたいと申し出をされた。当時の生島教頭が「お金よりなにか長く学校に残るものの方がよいでしょう。」といわれ、ご両親も了承されて、できたのがこの灯籠である。残念ながら本物ではなく、京都北白川の内田稔氏によつて、高槻にあつたキリシタン灯籠をもとに複製されたものである。

本校の「キリシタン灯籠」について「切支丹燈籠の信仰 松田重雄著」には次の通り記載されている。（抜粋）

織部燈籠（キリシタン灯籠）の特徴は竿石（下から2段目の丸みを帯びたところ）が両方に袖がでて、それが十字架の形をしている。その多くは、竿石の下部の方にくぼみがありそこにキリストの像が刻まれている。（中略）信徒の中心的信仰の十字架をどのように生かすかということで、燈籠の竿石に十字架を生かすことにした。更に欧州の弾圧時代に、宇宙の中心に神が存在される教えを竿石の袖を丸くすることで宇宙（聖霊）をあらわした。竿石の下にイエス（子）を彫んだ。次に竿石の十字架の中央に彫まれた文様についてであるが、※（下の図）のマークは慶長年間と江戸初期の僅かな期間のみに礼拝

※

|   |   |   |       |        |
|---|---|---|-------|--------|
| E | { | ⌒ | ..... | Pを横にした |
|   |   | ㄣ | ..... | Tである   |
|   |   | 一 | ..... | I      |
|   |   | ノ | ..... | ダッシュ   |

PTIはすなわちPATRI  
 ルトリ=即ち（父）である。  
 これで三位一体を表すことができた。

用として使用し、その後の燈籠にはこのマークは消滅している。

キリスト教主義教育を唱える同志社で、キリスト教信仰にかかわる灯籠があることに意味深いものを感じる。